

4 学校との連携事業 ～美術作品鑑賞授業～

事業の目的

学校完全週5日制や新学習指導要領の施行による教育環境の変化に伴い、児童・生徒の多様な体験活動の拡充が必要とされているなかで、美術館の役割や美術館と学校との連携のあり方を調査・研究することを目的とする。

事業の内容

学校に県立美術館の所蔵作品を持ち込み、教師と学芸員が連携して鑑賞授業を行うことにより、児童・生徒に本物の美術作品に触れ、優れた美術作品を鑑賞する喜びを体験する場を提供する。

- ア 実施校 県内の小・中・高等学校（障害児学校を含む）各1校
イ 実施時期 教育ウィーク（11月1日～7日）前後
ウ 会場 学校内の教室等

開催状況

ア 小学校

- (ア) 開催校 大竹市立栗谷小学校
(大竹市栗谷町小栗林510)
(イ) 開催月日 平成14年11月8日(金)
(ウ) 指導者 福田浩子学芸員(当館工芸担当),
阿比留時彦教諭
(栗谷小・5～6年生担当)

(エ) 参加児童 全校児童(25人)

(オ) テーマ 色々な工芸品を鑑賞する

- (カ) 展示作品
- ・河井寛次郎 作 呉州三色碗(陶器)
 - ・藤本 能道 作 草白釉釉描加彩月下木乃葉づく陶筥(磁器)
 - ・金重 陶陽 作 備前耳付水指(炆器)
 - ・清水 南山 作 波に龍文水瓶(金工)
 - ・金城三代一国齋 作 虫に蔓草高盛絵会席盆(漆工)
 - ・小林健一郎 作 櫻丸盆(木工)
 - ・山根 寛齋 作 玉椿空彩箱(木工)
- (計7点)

- (キ) 関連記事 中国新聞 平成15年1月9日
「アート新景 第1部 美術館の模索③ 学校と連携 出張や送迎～週5日制双方にニーズ」



イ 中学校

- (ア) 開催校 世羅町立世羅中学校(世羅郡世羅町寺町961番地)
(イ) 開催日時 平成14年10月28日(月)
(ウ) 指導者 角田 新主任学芸員(当館洋画担当), 石原詠子教諭(世羅中, 美術科担当)

- (エ) 参加生徒 2年生(100人)
 (オ) テーマ 現代絵画を鑑賞する
 (カ) 展示作品 名井萬亀(ない まき, 明治29・1896~昭和51・1976, 広島市出身) 作



- ・題名不詳(静物画)(油彩画) 45.8×33.6 (cm)
- ・数寄屋橋(ク) 65.2×45.5
- ・原爆(ク) 89.3×130.0
- ・ビキニの灰(ク) 60.9×40.9
- ・憩い(ク) 72.6×52.6
- ・無明(ク) 112.0×161.8
- ・宮古市浄土ヶ浜(ク) 112.0×162.8

(計7点)

- (キ) 関連記事 中国新聞尾三圏 平成14年10月29日
 「県立美術館が初の出張授業 世羅中 学芸員が絵画解説」

ウ 高等学校

- (ア) 開催校 広島県立自強高等学校(福山市加茂町下加茂6)
 (イ) 開催日時 平成14年11月14日(木)
 (ウ) 指導者 藤崎 綾学芸員(当館洋画担当), 原仲裕三教諭(自強高, 美術科担当)
 (エ) 参加生徒 3年生(絵画・クラフト選択, 22人)
 (オ) テーマ 自画像と風景画を鑑賞する
 (カ) 展示作品 檜山武夫(ひやま たけお, 明治39・1906~昭和7・1932, 広島市出身) 作

- ・自画像(油彩画) 73.0×53.1 (cm)
- ・自画像(黄色い)(ク) 33.0×23.5
- ・プラットホーム(ク) 60.0×73.0
- ・陸橋(ク) 91.0×91.0

(計4点)

- (キ) 関連記事
 読売新聞備後版 平成14年11月15日 「県立美術館学芸員高校で出前授業」
 中国新聞福山都市圏 平成14年11月15日 「美術館所蔵品教室に『出前』」
 山陽新聞備後版 平成14年11月15日 「生の絵鑑賞 創作に意欲」
 産経新聞備後版 平成14年11月15日 「県立美術館の所蔵作品 美術授業に活用」



平成14年11月15日読売新聞